

②商品開発等による地域活性化に関する学習

地域の商店街の活性化や学校と地域の共創をテーマに学習を実施した。本校の近隣にある愛知工業大学の地域共創をテーマとするゼミナールに1年間生徒が大学生と一緒に学習し、地域起こしのために何が必要かを学んできた。具体的には、活気のある地域とするための「商店街や商店のPR活動」、店舗の魅力を向上させるための「新たな商品の開発」を生徒により行った。

③商業科で学んだ知識・技術を伝える小中学校での出前授業に関する活動

ICTやSNSの急速な発展・進化に順応でき、ICT・SNSを適切に活用することが重要な時代である。本校の授業で学んだ情報に関する知識や技術を活用し、近隣の小中学校で『SNSの利用の仕方』、『プログラミング』等の授業を生徒が行った。

④外国の高校生の受け入れ・国際TV会議システムの活用による交流活動

本年度は、台湾から2校、韓国から1校、中国から2校、85名の高校生を受け入れ、日本の文化、名古屋の観光等の紹介や茶道・書道等の交流授業等により、異文化理解・国際交流関係の活動を実施した。

⑤外国の高校生との英語による共同プレゼンテーションの活動

本年度は、8月にWorld Youth Meeting（日本福祉大学主催）、12月にAsia Student Exchange Program（台湾高雄市政府教育局主催）に参加し、台湾の高校生との共同研究を英語により発表した。台湾での発表はプラチナ賞（最高賞）を受賞した。

⑥外国の高校生との共同商品開発に関する学習

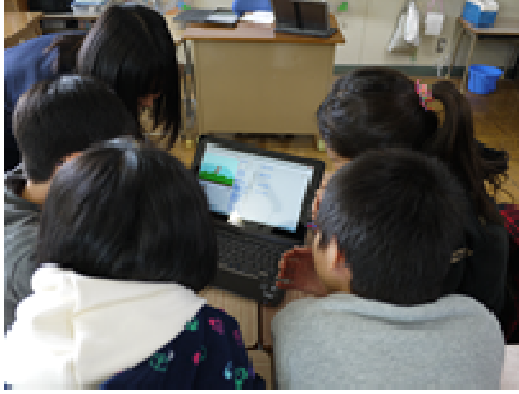
マレーシアにある本校の姉妹校ケパラバタス科学高校の生徒とマレーシアで生産されるコーヒー豆を原料とするインスタントコーヒーの商品開発を行うため、本校との交流を深めるとともに、コーヒー農園・工場の視察、意見交換を実施し、商品開発の準備を始めた。



①の写真（地域でのイベント）



②の写真（地域活性化の研究発表）



③の写真 (小学校でのプログラミングの授業)



④の写真 (国際TV会議による交流授業)



⑤の写真 (ASEPでの記念写真)



⑥の写真 (コーヒー工場での打合せ)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

『ビジネス実務』（実教出版、教科書）
『マーケティング 新訂版』（実教出版、教科書）
『商品開発』（実教出版、教科書）
『広告と販売促進』（実教出版、教科書）
『ビジネス経済応用』（実教出版、教科書）
『最新プログラミング』（実教出版、教科書）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

本校では、ユネスコスクールの活動を商業科目の学習のなかで実施している。また、休業日、授業後に実施する活動は、ビジネスクラブというクラブ活動としてじっしした。

商品開発に関する活動は商業科目『マーケティング』・『商品開発』、地域貢献に関する学習は商業科目『課題研究』、国際交流に関する学習は学校設定科目『国際交流実習』、英語によるプレゼンテーションは『総合実践』等の各科目の年間指導計画の中に位置付けている。生徒が主体的、能動的に取り組めるよう、ブレインストーミング、KJ法、マインドマップ等を取り入れた指導を実施した。また、学習する前に、生徒に学習の評価観点・到達度について説明し、学習後生徒が自己評価し、生徒自身が自らの学習を振り返り、次の学習につなげるよう指導した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

学校運営委員会、教科主任会において学習内容、指導法、活動概要等を検討し、職員会議において全職員への周知に努めている。特に学習指導の中心となる商業科教員は商業科会において、活動内容の報告、指導法・評価法の研究を行い、ユネスコスクールの活動が継続的に取り組めるようにしている。また、各科目の担当者間で教材・指導計画の研究を実施している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

個々の学習活動は、観点別ルーブリックを用いて、学習評価を実施している。生徒の状況と学習内容から、個々の学習の到達度と評価基準との関係を研究し、本年度は4段階の基準をベースとしたルーブリックにより評価を実施した。この評価から、コミュニケーション能力、協調性、積極性表現力の向上は顕著に成果として現れたが、思考力・知識等の総合化においては指導法・学習内容等の検討が必要であるという結果であった。また、ユネスコスクールの学習については、学校評議員会において報告しており、生徒のフィールドワークについては高い評価を得た。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

活動の成果については、愛知県ユネスコスクール交流会におけるブース発表、学校独自の成果発表会（会場：中部国際空港イベントプラザ）における研究発表及びブース展示、愛知県内で開催された各種イベントにおいてブース展示・ワークショップ・研究発表を実施した。学校関係者だけでなく、広く市民・県民に対し本校の学習活動を知らせることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

本校ではユネスコスクールの学習を進めるため、以下の団体、大学、高校、企業等から連携協力を得た。

愛知工業大学 愛知文教大学 名古屋文理大学
UNIVERSITI SAINS MALASIA Sekolah Menengah Sains Kepala Batas
日本福祉大学 名古屋三越 合資会社大口屋
（公財）名古屋観光コンベンションビューロー
高雄市立高雄高級商業職業学校 高雄市立中正高級工業職業学校
チェリーブルック工科高等学校

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

国内外のユネスコスクールとの交流なし。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

ユネスコスクールに関する学習の評価、特にルーブリックを活用して生徒の学習到達度を評価するという商業科の取り組みを全職員で共有するとともに、生徒の主体的・能動的な学習活動いわゆるアクティブラーニングの評価に関する研修を実施した。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

- ①商品開発等による地域活性化に関する学習
 - ・地域の商店街の活性化や学校と地域との共創をテーマとした学習
 - ・地域活性化のためのイベントの企画・運営
 - ・賑わいのある街づくりを目的とした地域商店街・商店のP A R
 - ・住み良い街づくりのための提案活動
- ②商業科で学んだ知識・技術を伝える小中学校での出前授業に関する活動
 - ・I C T・S N Sに関する地元小中学校での出前授業
- ③外国の高校生を受け入れ・国際T V会議システムの活用による交流活動
 - ・台湾・中国等の高校生との交流活動
 - ・オーストラリア・台湾の高校とのT V会議システムを活用した交流授業
 - ・台湾修学旅行による異文化体験・現地校との交流活動
- ④外国の高校生との英語による共同プレゼンテーションの活動
 - ・World Youth Meeting(日本福祉大学主催)の参加
 - ・Asia Student Exchange Program(台湾高雄市政府教育局主催)の参加
- ⑤外国の高校生との共同商品開発に関する学習
 - ・マレーシアへの生徒派遣と現地校との共同商品開発